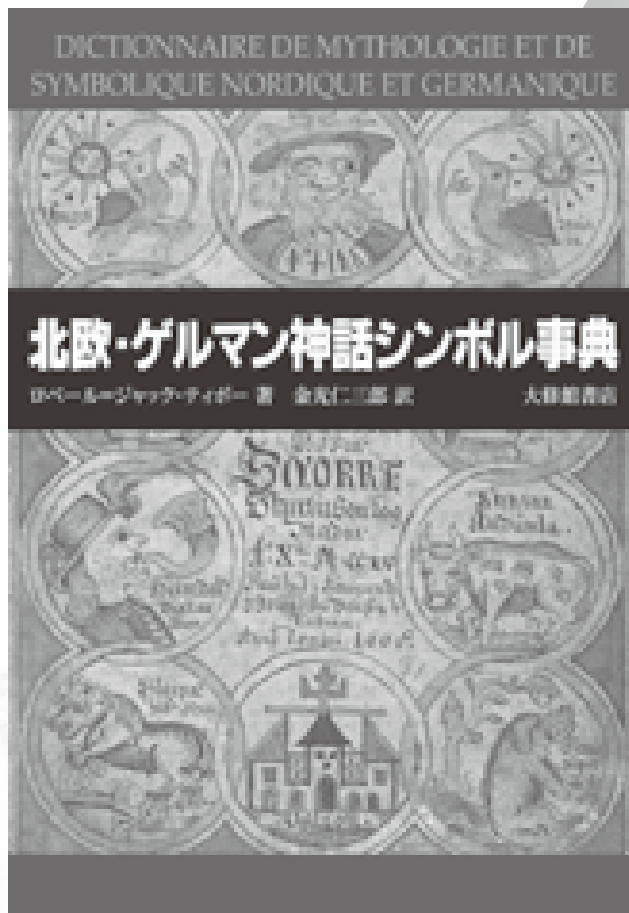


DICTIONNAIRE DE MYTHOLOGIE ET DE SYMBOLIQUE
NORDIQUE ET GERMANIQUE

火と氷の原初世界から、神々の黄昏へ

北欧・ゲルマン神話は、ギリシア・ローマ神話、ケルト神話とともに、ヨーロッパ文化の理解には欠かせない。J・R・R・トールキンの『指輪物語』をはじめ、北欧・ゲルマン神話をモチーフにした文芸作品は数多く存在する。

本事典では、北欧・ゲルマン神話の基礎的知識をコンパクトにまとめている。神話に登場する人物・事物があらわす象徴性(シンボル)がわかり、神話が示す文化的背景が理解できる。



本事典のおもな特色

- 項目数は985
- 「牛」「海」「黄金」「雷」「杯」等、象徴性を示す一般名詞を多数取り上げて解説
- 項目配列は五十音順
- フランス語索引・英和索引つき

北欧・ゲルマン 神話シンボル事典

ロベール=ジャック・ティボー [著]
金光仁三郎 [訳]

2021年8月刊行
A5判・上製・290頁
ISBN 9784469012903

定価4,400円(本体4,000円+税)

■ 著者・訳者略歴

[著者] ロベール=ジャック・ティボー

フランスの神話学者(1941-2002)。ナント大学で教鞭を執る。主な著書は*Dictionnaire de Mythologie et de Symbolique Grecque*, Dervy(『ギリシア神話・象徴事典』、未訳)、*Symbolique des Apôtres*, Dervy(『12人の使徒の象徴体系』、未訳)、*Dictionnaire de Mythologie et de Symbolique Egyptienne*, Dervy(『エジプト神話・象徴事典』、未訳)。

[訳者] 金光仁三郎(かねみつ じんさぶろう)

フランス文学者(1941-)、中央大学名誉教授。専門はフランス古典主義文学、比較神話学。東京大学大学院人文科学、仏語・仏文学科修士課程卒業。主な著書は『ラシーヌの悲劇』(中央大学出版部)、『原初の風景とシンボル』(大修館書店)など。主な訳書は、ジャン・マルカル『ケルト文化事典』(大修館書店)、ジャン=クロード・ベルフィオール『ラルース ギリシア・ローマ神話大事典』(大修館書店)など。



収録項目の例

ギャラルブル
 GYLLARBURD
 「ギョル用」に属する種。すべての種の中で最も重要な種だが、北欧神話で2番目の種として我々から登場してくるのがギャラルブル種である。この種は、生者と死者の世界を繋ぎ、モーズアズという種が種を書いている。ヘルモーズは、少し前に殺されて冥界の住人になった兄のバルドルと再会しようとしてこのギャラルブル種を渡った。ヨザル (1) 【1】、種、バルドル、世界【1】(がん)、ビフレスト、ヘル (2) 【冥界】、ヘルモーズ、モーズアズ

種【とねりこ】
 FRODNE
 オーディン・ヴァリ・ヴェーの神々は、種【とねりこ】の種から男を彫ってアスタ(ワザ)と名付け、種【にれ】の種で女を作ってエムブラ(ワザ)と名付けた。人間はこの最初の夫婦から生まれた。神々はこの夫婦をミズガルズの園の中に置いた。エムブラが産む種で、あらゆる生命はこの宇宙間を遊蕩していると評されている。これは、人間が宇宙的存在、そしてオーディン・ヴァリ・ヴェーが北欧・ゲルマンの総神の神々・祭司であることを示している。ヨアスタ、宇宙創造、エムブラ、ゲムンガガブ、種木、「トロールの怪物」、ラヴェルゲルニル、エムブラ

ハールバルズ
 HARBARD
 「冥界の種」。オーディンが若い他人に身をやつしていたときに付けられた別称。特にこの種から象徴的に喚起されるのは、オーディンが冥界と冥界を見え、絆を結んでいるということである。ハールバルズはまた、トールが川を渡ろうとしたときに出会った渡し守に化けていたオーディンの別称でもある。トールが冥界に落ちないように、川を渡らせぬとハールバルズは息を吐く。渡し守が使っていた船はヘルドールグが所有していたもので、このヘルドールグもオーディンの別称である。ヨオーディンの別称 (2)、トール、ヘルドールグ

大修館書店HPで本書の一部が“試し読み”できます! → → →



大修館書店 〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1 TEL: 03-3868-2651 FAX: 03-3868-2640 https://www.taishukan.co.jp/

注文書	書名	定価	ご注文数	番線印
	北欧・ゲルマン神話シンボル事典 978-4-469-01290-3	税込4,400円 (本体4,000円+税)	冊	
	お名前	ご記入日	年 月 日	
ご住所 〒	電話番号 ()			

*お客様の個人情報は本書のご注文のみに利用し、目的外の利用はいたしません。